

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000385		
法人名	社会福祉法人 幸		
事業所名	アルモニー早瀬町		
所在地	姫路市広畑区早瀬町2丁目4番地の1		
自己評価作成日	平成26年12月20日	評価結果市町村受理日	平成27年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館 6階		
訪問調査日	平成27年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念が「共に生きる」～LOVE ACTION～同じ時間を共有している一人の人間として足りない所を補い共に助け合い思いやりをもってたった一度の人生が実りあるものとなるように お互いに大切にすることを基本理念とします。1、「楽しく」「笑顔」で暮らせるようにします。2、一人ひとりに寄り添い、安心できる「家」を目指します。3、地域に溶け込んでいけるようにします

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広畑区の県道415号線から少し南に入ると、住宅街の中で、子供たちの元気な声がいつも聞こえる場所に事業所はある。家族、職員、地域の方など利用者を取り巻く要素や環境が調和し、その人らしい生活が送れるとの思いで運営されている事業所は、平成25年度に新設された。運営法人が培ってきた経験や知識や人材を生かして、「楽しく」「笑顔」で暮らす実践が行われている。家族会を創設後立ち上げ、入居してからも家族とともに利用者を支える姿勢を大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生きる」「楽しく」「笑顔」で暮らせる一人ひとりに寄り添い、安心できる「家」を目指し地域に溶け込んでいけるように職員と共有でき実践するようにしている	法人理念と事業所設立時、事業所独自の理念で作られている。パンフレットにも掲載し、会議の中でその意義について確認するようにしている。事業所内に法人理念は掲示されている。事業所理念も併せて掲示し、理念の共有と意識付けを行うことが肝要と思われる。	事業所理念は、地域密着型サービスの事業を運営していく上でのあり方を指し示すものであり、職員及び利用者家族などの関係者にも常に理念が共有できるように掲示することが望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に自治会の会長さん達に、出席してもらい事業所の内容を伝え地域の祭、掃除、廃品回収に参加しお花、野菜を頂いている	自治会に加入し、地域清掃や自治会行事にも積極的に参加している。子供会の廃品回収にも参加し、近隣住民と馴染みの間柄になり、植栽した花・野菜などを頂くこともある。囲碁ボランティアを初めとして種々の地域ボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でお伝えし、地域交流として施設を提供し地域の方と一緒に出来る体操等を計画中である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度運営推進会議で取り組みの報告を行っている。地域の方や家族様からの意見ももらいサービスに繋げれる様取り組んでいる	利用者家族・自治会代表者・民生委員・地域包括支援センター職員・法人理事長・事業所職員を会議メンバーにして2か月に1回、定期的に開催している。事業運営上の報告だけでなく、意見交換・相談なども行われている。1月末に「いきいき100歳体操」の見学を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営開始後の数か月は運営推進会議に出席して頂いた。解らない事等あった時は電話確認を行っている。施設内の事故も報告をしている	利用状況の報告、更新手続き、事故報告など適宜、市町担当者と連絡を取っている。市内の事業所連絡会に所属して管理者またはケアマネジャーが出席し、情報交換や交流に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様が何度か外へ出てしまったことがあるので玄関の施錠はしているが、家族様に事情を説明して承諾書は頂いている。それ以外の身体拘束はない	併設サービスの特別養護老人ホーム等と共に医療委員会が主になって身体拘束廃止の取り組みや、法人及び事業所内で身体拘束廃止に向けた勉強会も行われている。当初、玄関は開錠していたが、徘徊等による安全面に配慮し、現在は、日中は施錠している。	玄関の施錠については、自分の意思で開けられない状態は拘束との認識の下に、利用者の安全面を考慮しつつ、利用者の行動パタンの把握による見守りでの対応など、施錠が常態化しない工夫や勉強会を含めた取り組みを望みたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は職員会議で教育を行い、入浴時にボディチェックを行うなど注意を払っている。新人が入職した時は、入職時教育として必ず行っている	接遇・人権・虐待予防委員会が開催され、職員会議を通じて全職員が共有している。また、日々のケアの取り組みの中でのストレスなどについても、管理者が適宜、職員に声掛けしケアに努めている。利用者の身体的変化などにも気配りした取組を行っている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者の研修で学んだ事を会議等で伝えている	運営法人の併設事業所に制度利用者がおられること等で管理者が制度について学んだことや認知症実践者研修で学んだことを会議で職員に伝達している。利用者家族等に対して、制度についての情報提供のために玄関などにパンフレット設置などが望ましい。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っており、別途承諾書等必要になった時はその都度説明をしている。家族会等でも質問を受け付け、納得いただくように努めている	利用者家族に事業所を見学していただいてサービス概要を説明し、契約書・重要事項説明書を時間を掛けて丁寧に説明し理解・納得の上で契約を結んでいる。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様に対してアンケートをお願いし、その結果を会議で話し合っている	年1回法人がアンケートを取る際に、事業所への質問を盛り込んで利用者家族等の意見・要望を伺うようにしている。アンケートの集約結果は、職員会議で共有されている。また年に1回家族会を開催して多数の家族の出席を得て、家族意見を汲み取る機会としている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課時に個人面談を行ったり、会議に出席し意見を聞く機会を作っている	パート職員を含む全職員に対して年1回人事考課を実施、個人面談を行って職員意見を把握したり、毎月1回の職員会議や日常の利用者支援の合間に職員からの提言を汲み取るように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週に2～3度は施設に行き、現状の把握に努めています。意見の中でできることはすぐに行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、管理者からの報告と行事、普段の態度等で総合的判断をおこない、会議等で教育の機会を設けている。管理者には、よく話を聞き、一緒に問題解決をすることでトレーニングをしている。また特養の委員会に参加し、勉強する機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	立ち上げ時には、他のグループホームの見学や分からないことを教えてもらったりした。その後は運営推進会議でお互いに委員となり交流をしている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	モニタリングであったり困った事があった時はその都度聞いて早急に解決できるようにしている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アンケートであったり、面会時に話を聞くなどしている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応等は家族様を交えその都度話し合いを行うようにしている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には「自分が相手側になった立場になって考えて欲しい」と、伝えている		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	モニタリングであったり、面会時でお話をしたりして関係を築けていくようにしている		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで行かれていたカラオケ教室へ入所されてからも続けていかれており、面会も来て頂いている	友達が訪ねて来たり、遠方からの電話を取り次ぐことのほか、入居前から継続して通っているカラオケ教室への通いの支援、家族の協力による馴染みの美容院に行くなど、本人の希望を聞いて馴染みの関係継続への支援を行っている。年賀状、暑中見舞いなどの支援も行っている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	中には気の合わない方もいたり、時には口喧嘩をされる方もおられるが、職員が間に入り馴染の関係を築けるようにしている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退去になられた方も、その後の相談等はしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを聞き意向等を聞いている	職員の担当制の中で、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するようにしている。会話の中から本人がしたいことや困っていることを聴き取って支援に努めている。盆栽作りを望んでいた方が梅の盆栽を育てることを始めらる等の支援に結びついている。言葉での表出が難しい方には家族から情報を得るよう努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初の面接時に生活歴を聞いて把握に努めている		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方もその方にあった過ごし方で行っている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認定調査時、ケアプランを作成する時に職員とモニタリングを行い家族様と交え話し合いをおこなっている	家族を交えて管理者・ケアマネジャー・職員など関係者でカンファレンスを行い、本人の意向を組み込んだ介護計画を作成している。また3か月～半年毎にモニタリング・評価を実施している。	絶えず変化する利用者の状態やその時々を思いを理解し支援を深めるために現状のアセスメントツールを工夫し、職員間で共有する取り組みを望みたい。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時や、会議で問題点をあげてその都度話し合いを行っている		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題点があればその都度どう対応をしていったら良いのか考えてニーズに答えられる様にしている		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進で地域包括の方		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは連携を行っている、他の受診は家族様希望だが、提案・助言はしている	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族付添いの受診となっているが、状況によっては職員が付添い支援を行うこともある。他科受診に際しても家族対応としている。診療情報は家族と連携して把握するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とかかりつけ医とは24時間の連絡体制を確保して緊急時の状況に応じてかけつけるオンコール体制をとっている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はお見舞いがてら訪問を行っており入院先のSW・看護師と状態を聞いている	入院時は速やかに情報提供書を提出し、早期退院に向けて家族及び医療相談員、看護師と連絡を取るようにしている。入院中は見舞い等により、本人の状態を確認、退院時にはカンファレンスに出席し、退院後の支援のために看護サマリー入手など連携に努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様とその都度話し合いの時間を設け今後の対応について話している	入居契約時に利用者家族に対して事業所として看取りは行わない旨を説明し、希望すれば併設事業所の特別養護老人ホームへの案内など相談に乗っている。入居中に利用者の状態が急激に変化していく場合は医師、家族はじめ関係者と今後について相談するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議等で勉強をしている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている 災害の備えて食料・飲料水などの準備も行っている	年2回、消防署立ち合いのもとで通報訓練・昼夜間想定避難訓練・消火訓練を行い、運営推進会議で地域の協力や呼びかけを行い、災害対策に取り組んでいる。また食糧・水等の備蓄もされている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員個々把握して声掛けなど対応をしている	接遇・人権・虐待予防委員会のメンバーが本部で学んだことを職員会議の中で全職員に伝え、徹底を図っている。日頃、利用者一人ひとりに応じて尊厳を損ねないように声掛けを行い、支援に努めている。管理者は、不適切な対応と思われた時には適宜指導するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物等を聞いたり、自己決定が出来るように職員が対応している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆で行うことは一緒にしているが、個々の希望対応はその人のペースに応じて行っている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性なら化粧水の提案や、お化粧をされる方にはクレンジングの購入を行っている			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、買い物時に食べたい物を聞いて対応を行っている	利用者とともに献立をたて、買い物をし、昼食や夕食は利用者準備から調理や片付けなどを職員と一緒にやっている。買い物先で旬の素材があった場合は、献立が変更になることもある等、食事を楽しめるように支援をしている。	職員と利用者は家族の関係作りとの観点から、支援する人される人の関係ではなく、家族同様、毎日利用者と一緒に食事を楽しむことが大切なことなので、出来ることなら日常的に同じ食卓で食事を味わう取り組みを望みたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿の方には、全体的に少なめ、水分量の測定が必要な方は1日合計量を測定している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは行っており、必要に応じて歯科往診を依頼している			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけその方に合っているか検討を行い必要に応じて対応をしている	一人ひとりの排泄パターンを排泄表でチェックし、その支援状態を記録、その評価をリーダーがカンファンスなどにあげ、支援方法を検討し、自立に向けた支援の実践につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂ったり、水分、ヨーグルトやバナナの提供で工夫をしている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回と決めている、体調不良等で入れない時はその曜日ではなくても入ってもらっている	できるだけご自宅での入浴に近い時間である午後に入浴支援している。菖蒲湯やゆず湯などの行事湯も楽しんでいる。入浴を拒否される方に対しては、時間や日時を変え、誘導の仕方を変えるなどして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に応じて行っている、入眠・起床時も個々の希望に応じている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書で確認を行っている。薬の仕分けも解るように職員でおこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の趣味を聞き支援出来るように行っている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地元の祭りもう一度見たいと希望があり家族様と屋台が通る道を教えてもらい見に行った	天気の良い日には近所の公園や、保育園の前の道を散歩している。回覧板を利用者とともに持って行ったり、食料品などの買い物にも出かけている。誕生日は個々の希望に沿った場所に出かける外出支援を行っている。花見や地域の夏祭り、秋祭りにも出かけている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様から、お金を預り希望時には買いに行っている		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方もおられ必要に応じて施設の電話でお話をされている		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が解るようにその季節に合ったお花を飾っている	玄関脇の大きな琵琶の木を見上げながら、玄関に入ると、利用者の作品である着物姿の案山子が迎えてくれる。居室の中央にある居間はゆったりと広く、たたみ部分には掘りごたつが設置されている。南の大きなドアからは暖かな日差しが入る。板間のバルコニーに花のプランターが並ぶ。庭はバーベキューを楽しむ空間として活用されている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやこたつであったり好きな空間で過ごせるように配慮している		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味の作品や好きなもの、施設内で作った作品を飾ったり馴染の筆筒等を使用している	利用者が普段使い慣れている家具や家財を持ち込んで居心地よい空間が作られている。使い込んだカバンや帽子、家族の写真や、思い出写真などが並んでいる。趣味の写真集や歴史本などを詰め込んだ大きな本棚を持ち込まれて、馴染んだ空間を楽しんでいる。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの高さもその方の下腿に合わせて行っている		